

～活動主意書～

この活動を始めるきっかけとなった経緯と自分の思いを見つめ返し、初心を確認すると共にその思いをみなさまにお伝えできればと思います。

私は広島で生まれ育ちました。小さい頃に広島友の会の会員だった母の影響もあり、夏の平和学習や被爆者の方から体験談を聞く機会や交わりに小学生会などで参加していました。

時には「ひもじさの体験」といって、朝食夕食なし、お昼は近所の川でとってきたセリやナズナなどの葉っぱにサツマイモと少しのご飯粒がはいったお粥のようなものを食べて過ごすという体験もしました。幼い自分にとって、あたりまえにある食べ物が食べられない苦しい体験は大人になった今も深く残っています。

戦争の事、原爆の事、幼い私には理解することはできず、ただただ恐怖心だけが残り、飛行機の音が怖かった時期もありました。

20歳の頃に上京し、劇団四季に7年在籍しました。ある日、研究生だった私は8月6日の朝に稽古場の掃除をしていました。時計を見ると8時15分...わたしは稽古場の片隅で黙祷していました。すると、ひとりの友人が私に「何をしているの？」と尋ねたので、私は「今日は8月6日だからね」と言いました。しかし、彼女はきょとんとして「ハローの日？」と聞いてきました。今度は私がきょとんとし、原爆の事を彼女に説明しました。その時まで、八月六日はみんなが知っているものと思っただけに、カルチャーショックのようなものを感じたのを覚えています。9年前に約10年間の東京生活にピリオドを打ち、故郷広島へと帰ってきました。しばらくは歌の活動も封印し、のんびりとしておりましたが、知人の紹介でいろいろな老人ホームなどで歌う機会を持つようになりました。ある日のロビーコンサートの後に一人の小さな老婦人が一枚の色紙と楽譜を持ってこられました。その楽譜と色紙に書いてあったコトバは「**まがつびよふたたびここにくるなかれ平和を祈るひとのみぞここは**」という、日本で初めてノーベル物理学賞を受賞された物理学者湯川秀樹博士のコトバでした。婦人は長く世界平和連邦で湯川秀樹博士や奥様のスミさんと共に平和活動に力を注いでこられたとの事で、お話させていただくと、小さな身体では想像できないほどのパワーに満ち溢れた方でした。

老婦人から頂いた楽譜…楽譜という一枚の紙は引き出しに入れておいては、眠った状態です。この歌に人の息吹が加わり、初めてその歌は大切なメッセージを多くの人に届ける事ができる…。婦人自身も被爆者として活動されており、いろいろな苦勞があったことを話してくださいました。あるところでは「あなたは被爆者だからそう言うのでしょうか。ハワイ真珠湾攻撃では、私の親戚が多くなりました。」と言われた事もあるそうです。しかし、婦人は「そうではない、私は被爆者として言っているのではありません。私はこの地球上に住むただ一人の人間として、子供たちの未来に戦争や核兵器のない世界を創ってほしい。あんな悲しい事は二度と繰り返してほしくない」…そう語ったそうです。「あなた達若い人に頼みますよ、頼みますよ」…と涙ぐみながら語ってくださった光景は今でも私の脳裏に鮮明に残っています。初めは私なりにいろいろ悩みましたが、この出会いにもきっと意味があると信じ、活動を始めました。婦人は天国へと旅立たれましたが、私は私

の出来る方法で婦人の平和への願い、まがつびの歌に流れる湯川博士の祈りを受け継いでいこうと、年に1度ですが「平和というものは当たり前には存在するのではなく、今ある私達一人一人が意識して創りだしていく」という事を、多くの人と音楽を通して分かち合っていく事を大切に、平和への祈りコンサートを開催しています。

今3才になる娘がお腹の中にいる時に婦人の友社8月号の平和特集座談会に呼んでいただきました。写真家の本橋成一さん、ジャーナリストの下村健一さん、そして反貧困ネットワーク事務局長をされておられた湯浅 誠さんという素晴らしい活動をされておられる方々に交じっての座談会でした。そこで語り合ったのは「市民力」というキーワードでした。私達ひとりひとりの力は小さいけれど、地域のいろいろな繋がりの中でさまざまな事を発信していく…核家族化になり、地域との交わりが希薄になりつつある今だからこそ、意識して共に分かち合っていくこと…市民力の大切さを、お話を交えながらとても勉強になりました。その時に初めて、小さな私の働きも大切な「市民力」であるという事を実感しました。今では母となり、ある意味「続けていく事の難しさ」を感じながら、娘をはじめ子ども達の未来に戦争や核の雨が降らぬよう…私なりの市民力を続けていくことの大切さも同時に感じています。

…私自身も子どもを持つひとりの母として、未来に同じ悲しみが繰り返されないように願ってやみません。

多くの先人達が命をかけて繋いでくださった「平和」は私達の未来に永遠に保証されたものではありません。

子ども達の未来の為に今の私たちにできる身近な平和創り…それはきっと「平和を創りだしていく」という事を意識する事から始まるような気がします。

少しでも多くの方にこの活動の事を知っていただきたいと思い、ここに主意をまとめました。どうぞよろしく願いいたします。

NPO 法人シードオブピース
理事長 道田涼子